渡部雅博：1998年度「藻類談話会」参加報告

1998年11月14日（土）午後，恒例となった「藻類談話会」が秋の観光シーズンで賑わう京都市で開催された。会場の京大会館には近畿の府県のみならず徳島，広島などの四国地方，中国地方からの参加者もあり，計約40名ほどの集まりとなりました。プログラムは以下の通りです。例年は研究者による講演だけでしたが，今回からは新たに若手研究者や大学院生による研究発表会も加わり，より一層充実した内容となりました。

私自身，海洋関係に関わりが深い事もあり，ふたつの題目に注目していました。ひとつは，瀬戸内海区水産研究所の内田先生による有害渦鞭毛藻の話です。有害赤潮生物として近年，最も注目を集める渦鞭毛藻の*Heterocapsa circularisquama*は瀬戸内海でも発生例があり，98年は広島湾でのカキの養殖にも大きな被害をもたらしたのは有名な話であります。本種が大発生するための水温や塩分濃度などの生理的条件や，他の植物プランクトンへのアレロパシー効果をはじめとする生態系での相互作用など，実に興味深い内容でした。

ふたつ目は，神戸大学大学院生である佐々木秀明氏の褐藻ツルモの分布と分子系統に関する研究です。この中で氏は日本国内のみならず世界各地から計１８産地のツルモを用い解析を行い，ツルモについて三つのグレードが形成されると述べられていました。

日本国内でも北海道南部の木古内のものと兵庫県北部の今子浦のものが別系統であるという指摘でした。私は学生時代には木古内で，現在は山陰海岸の生態調査でツルモを見ていることもあり，これらが種レベルで違う可能性があるという話を身近な事例として受け止めておりました。また，全体的に研究法として生化学的なやり方が主流になってきていると感じました。日頃，その種の分野にふれる機会が少ない私には，今回の講演や研究発表は大きな刺激となりました。

研究発表会風景

研究発表会終了後は会場１階のスペシャルルームで懇親会となりました。

なお次回の藻類談話会の開催地は奈良女子大学と言う事です。次回も是非参加させていただきたいと考えております。

最後になりましたが，毎回幹事としてお世話いただき，この度の報告に際し写真を提供していただきました京都大学総合人間学部の幡野恭子氏に感謝いたします。

懇親会でのひとこま

プログラム

- **講演会** １福澤秀哉（京都大・農）：クラミドモナスにおけるCO_2環境応答遺伝子，２村上明男（神戸大・内海域）：ラン藻光合成系の環境応答，３内田卓志（瀬戸内海区水産研究所）：有害渦鞭毛藻*Heterocapsa circularisquama*の生理生態について
- **研究発表会** １渡邊一生・江原　恵（阪大・理）：藻類ミトコンドリアCOXIでみられた感染力のある転移性イントロンについて　a. 緑藻*Clorella vulgaris*, *Scenedesmus quadricauda*, *Protosiphon botryoides*のgroup I intronについて　b. ハプト藻*Pavlova luteri*, 珪藻*Thalassiosira nordenskioldii*のgroupII intron について，２田中靖子（奈良女大・理）：*Scenedesmus*のゴルジ体を中心とした小胞輸送に関与す　る細胞骨格系の解析，３武田　徹（近畿大・農）藻類における活性酸素消去系の分子特性，４佐々木秀明（神戸大・自然科学）褐藻ツルモ（コンブ目）の分布と分子系統について，５安元美奈（徳島大・薬）イカダモの形態に変化をもたらすミジンコのカイロモン

(677-0014 兵庫県西脇市郷瀬町 666-5 兵庫県西脇保健所)